

こどもが まんなか

# いわてのWAっこ

ワクワクドキドキ!



ハンカチ上げ



足踏みかけ



すべての子どもたちと学校の  
ウェルビーイングの実現  
を目指して

いわて幼児教育センター通信  
No.10 令和8年3月2日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室  
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロードできます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku>

[u/gakkou/1006358/1058868.html](https://gakkou/1006358/1058868.html)

きらきら☆いわてっこ

いわて幼児教育センターの専門員が訪問支援した園の、幼小接続の様子を紹介します。

## 「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」 —遊びの中の学びを 幼小の先生で 共に見取り考える—

### 訪問支援に合わせて、幼小接続の取組を行った事例

<5歳児 11月>

この市では架け橋期のカリキュラム開発会議に関わって、地域ごとのワーキンググループがあります。この日の参加者は、園の先生方に加え、小学校から校長先生・1年生担任・接続担当者、市から指導主事・幼児教育アドバイザーです。5歳児の子どもたちが、自分のやりたい遊びに自由に取り組む様子を参観しました。

キャンプごっこでは、少し寒くなってきたので秋バージョンから初冬バージョンに変化して「こたつ」が登場していました。こたつの周りでは、洗濯をして干す子、バーベキューをする子、古代人の衣装を身に付けて発掘調査を楽しむ子など、自分なりのイメージを実現しながら、友達との関わりを楽しむ姿が見られていました。

駄菓子作りでは、遠足で行った「駄菓子屋さん」を再現しようと、制作をしていました。(この遠足は、子どもたちと保育者が話し合って内容を決め、取り組んだ行事だそうです。)

保育参観後には、グループに分かれて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で協議し、保育の中で見られた子どもの姿が、小学校のどのような学びにつながっていくか話し合いました。「園での成功体験や達成感、小学校での自己肯定感の高まりにつながり、学びの意欲につながります。」という小学校の先生の言葉に、幼小の育ちと学びのつながりを感じました。

### 遊びを通した学び～幼児教育が大切にしていること～

幼児期は、幼児が自発的・主体的に人やものに関わりながら、遊びを通して必要な能力や態度などを獲得していく時期です。そのため、幼児教育では、幼児の「遊びを通した学び」を大切にしています。ただ自由に遊ばせるのではなく、幼児一人一人が自ら興味や関心をもって、遊びに夢中になる中で試行錯誤しながら、様々な経験を重ねていくことを大切にしています。

保育者は、幼児の遊びが確保されるよう、小学校以降の教育とのつながりを見通しながら、意図をもって幼児を取り巻く人やものといった環境を構成しています。幼児教育ではこうした教育を「環境を通して行う教育」と呼んでいます。

そして、こうした幼児教育を通して育まれた幼児の資質・能力は、その後の小学校以降の生活や学習においての基盤となっています。

(文部科学省 「幼児教育と小学校がつながるってどういうこと？」より抜粋)



作りたいのは「ねじったような駄菓子」どうしたらイメージ通りに実現できるか考え、スズランテープで三つ編みすることにしました。保育者に支えてもらいながら真剣に編み込み中。



色、形、大きさ、手触り、雰囲気等に細やかにこだわり、何を使ってどう表現するか、納得できるまで素材探しをしていました。保育者も一緒に探したり、試してみたりして、思いに寄り添いながら支えます。

### (観察者の目)

子どもたちの遊びの始まりが「自分が経験して心が動いたこと」「ワクワク・ドキドキして楽しかったこと」でした。5歳児は自分が楽しんできたことを、みんなにもやらせてあげたいという思いを抱きます。

「駄菓子屋を開店して、小さいお友達を招待したい」「もっと本物らしく作ってみたい」という思いは、小学校以降の探究心、向上心、粘り強さ、自己調整力等にもつながっていきます。

※裏面の「幼小の先生方がつながるポイント」も併せてごらんください。

# 岩手県教育研究発表会「幼児教育/幼小接続分科会」

～R8.2.6 岩手県立総合教育センター～

「夢の実現に向けて自ら学び行動する岩手の子ども～指導と評価の一体化で育成する確かな学力～」をテーマに、今年度も県内各地における教科・領域等の実践が多数発表されました。

「幼児教育/幼小接続分科会」においては、3つの実践発表があり、それぞれの発表に対して活発な協議が行われました。協議の中では、「遊びが子供達の成長につながっていることがよく分かった」「実際にカリキュラムを見たときに、どのような話し合いが行われていたのかが示されていて、自分たちが実践するときにとっても参考になる発表だった」「園の先生方の、子供の見取りが丁寧だと思った。小学校の先生も子供を見取るという意識をもって、授業を行ったり子供達と関わったりすると、見取り方が変わってくるのかなと思った」「紙面でのカリキュラムは充実してきているが、大人の都合だけになっていないか考えさせられた。実際に子供達を見て、具体的な姿を基に顔を合わせて話し合うことが大事だと感じた」等の話が話題に上がりました。

この実践発表は、3月5日(木)まで、総合教育センターWebページからオンデマンド視聴することができます。また、総合教育センター長期研修生の研究報告書等は、総合教育センターWebページ上に掲載されています。

	内容	推薦団体	所属
1	育ちと学びをつなぐ保育を目指して ー10の姿を手掛かりに子供の姿を共有しながらー	国公立幼稚園・こども園協議会	花巻市立花巻幼稚園
2	幼保小の協働による子どもの学びと生活の基盤づくり ー宮古市架け橋プログラムの開発・実践とこども家庭センターとの連携をととしてー	宮古市教育委員会	宮古市教育委員会 宮古市保健福祉部 宮古市立崎山小学校 認定こども園宮古泉幼稚園 宮古市立崎山保育所
3	幼児教育と小学校教育の円滑な学びの接続 ー資質・能力をつなぐスタートカリキュラム作成を通してー	岩手県立総合教育センター	岩手県立総合教育センター (一戸町立一戸小学校)

## 「幼小の先生方がつながるポイント ー訪問支援の活用ー」

表面「きらきら☆いわてっこ」に掲載されている園のように、訪問支援の際に小学校の先生も招き、年間指導計画等にある「保育や子供の様子を見ていただく機会」と兼ねている園が少しずつ増えています。

幼小の接続を進める際に、県の事業もぜひ活用ください。その際、4月にいわて幼児教育センターから発出する「訪問支援申込書」の下部にある「幼保小の接続のための訪問支援を申し込みたい」という欄に○を付けてください。県の幼児教育専門員は「架け橋期のコーディネーター」も兼ねていますので、事前打ち合わせの際に園の様子を伺い、ニーズに応じた訪問支援を行います。

【参考：R7の申込書】

該当する項目に○を付けてください。

項目	要件	備考
1 訪問支援を初めて申し込み。	令和4～6年度に申し込んだことが無い。	
2 アドバイザー養成のための訪問支援を申し込みたい。	①市町村幼児教育アドバイザーが同行する。	市町村担当とアドバイザー又は候補の同行の調整は申込書で行ってください。
	②市町村幼児教育アドバイザーの候補になりうる方が同行する。	
3 保育の質の向上のための訪問支援を申し込みたい。	①保育参観（最大3クラスまで）。	
	②保育後のカンファレンスを行う。	
4 幼保小の接続のための訪問支援を申し込みたい。	①小学校の先生が同行する。	同行者の日報調整は申込書で行ってください。
	②他の園の先生が同行する。	
	③指導主事等が同行する。	

よろしければ、各市町村・園の取組の様子をお寄せください。「いわてのWAっこ」等を通して、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現のために、優れた実践を県内の皆さんの共有財産にしていきましょう。

【担当】いわて幼児教育センター Tel:019-629-6149 Email:DB0003@pref.iwate.jp